

# 長崎高教組新聞

発行  
〒850-0013 長崎市中央2丁目2番5号  
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合  
電話 (095) 827-5882  
FAX (095) 826-2976  
編集責任者 大場 雅信  
購読料 一部10円は組合費を含む

メールアドレス  
naga-kks@fsinet.or.jp

## 日常的な働きかけが、組合加入を実現させる！

長崎高教組は、1月26日(土)、大村市民会館で第214回定期中央委員会を開催しました。県内各地から、専門部役員2人、中央委員56人の計60人が参加しました。

開会宣言の後、大場執行委員長が挨拶に立ち、「昨年末に行われた総選挙では自民・公明両党が32.5議席を獲得し、財界中心、アメリカ力いなり政治体質が復活したが、小選挙区制の矛盾が大きな要因だ。決して自

民党が国民の信任を得たわけではない。しかし、選挙結果により、安倍政権は、集团的自衛権の行使に向けた解釈改憲と、憲法第96条が定めた改憲発議要件の緩和をおこな

い、全面的な憲法改悪を執行に移そうとしている。憲法が国家権力を制限する基礎法であるのに、権力自らが憲法改正のハードルを下げようとすることは許されな

い。これを受けて、組織拡大・強化、生活・権利、民主的教育的確立など分野ごとに討論が行われ、延べ28人が討論に立ちました。その中には、職場要求書をもとにした校長交渉のとりくみ、憲法改悪を許さない運動を広げる決意などの発言が相次

ぎました。討論終了後、議案に対する採決が行われ、すべての議案が満場一致で承認されました。討論の概要は次のとおりです。

今年度、執行部から、今年度のとりくみの総括、2013年春闘方針、6月の定期大会までの活動方針、暫定予算などの提案をおこないました。

これを受けて、組織拡大・強化、生活・権利、民主的教育的確立など分野ごとに討論が行われ、延べ28人が討論に立ちました。その中には、職場要求書をもとにした校長交渉のとりくみ、憲法改悪を許さない運動を広げる決意などの発言が相次

ぎました。討論終了後、議案に対する採決が行われ、すべての議案が満場一致で承認されました。討論の概要は次のとおりです。

### 第214回定期中央委員会 長崎県高等学校教職員組合



右：運動方針案を提案する馬場書記長  
下：閉会時の団結カンパニー



教員採用試験対策講座を受講した期付きの方が

組織拡大・強化のとりくみ  
長崎支部 新木中央委員

今年度、期付き任用の方が組合に加入。さつそく県教研に参加してもらった。分科会では3人の参加であったが、2人が非正規。「学校では、教科での悩みが交流できないが、教研で話せた。授業の進め方、指導など、どうしたらよいかの疑問が、この集会で解けた」と感謝の言葉をもらった。これからも未組合、新加入者へのこのようなとりくみが必要だと感じている。

対馬支部 小杉中央委員

今年度の県教研の講演会では、高校生タレントの藤波こころさんとの対談があったが、学校でも大いに宣伝し、未組合員に参加してもらった。これからは講師の選定については、若い人にアピー

要求アンケートを実施し、教職員20人からの回答があった。未組合員の方も悩みを書かれていた。今まとめるところであるが、管理職に対する不満が多かった。回答にあった教職員の生の声を教頭には渡した。その結果、教職員に対する対応が少し変化したように感じている。

昨年年度は、特定の科に特にハッパをかけて資格試験の合格率向上のみを至上命令とし、それらが達成されると職員も知らないうちに記念写真も撮るなど、校長の独断的な行動が目立った。異動したが、こんなことで「栄転」となるのは問題だ。管理職の職員に対する姿勢にも影響するが、目標管理シートの作成は、新しく異動した先生には負担と目されている。目標は個人の目標ではなく学年団や分掌での目標とすべきだ。個人ごとに目標

今年度、女性の加入者があったのでその報告をする。実教部の女性教員が日常的に、組合のとりくみ等を説明する中で加入を働きかけ、決意してもらった。さつそく歓迎会を行ったが、その中で「親が組合員だったのだから入れればならない」と話された。臨時任用の若い方に採用試験対策講座への参加を呼びかけたところ3人が参加。そのうち2人が合格、来年度採用となる。新任校での声かけをお願いしたい。

佐世保支部平湯中央委員

職場の状況について報告します。まず配布物だが、きちんと配布できて

職員生活と権利を守るとりくみ  
要求書に基づく校長交渉は積極的に行うべきだ

島原支部 釣船中央委員

がわからない状況が報告された。学校では、芸術はひとりという体制が普通。その中で、臨時任用の問題もある。このような立場の教諭こそ研修の機会が必要だ。

末岡中央委員

職場の状況について報告します。まず配布物だが、きちんと配布できて

このように問題の多い制度は廃止すべきではないか。

深松中央委員

一次合格。「一次のポイントが良くわかって良かった」という感想をもらった。二次試験についても「働きのがでた試験対策は難しいので二次試験の対策講座もためになった」との感想であった。

専門委員会のつどいにも参加してもらっている。今後とも組合加入への働きかけを積極的に行いたい。

入る。うちの分会では教科で配布係を決めているのでそれができていると思う。次に拡大。加入の声かけも行っている。しかし、拒否はされないものの加入を迎えるには至っていない。今年度の賃金確定の情報は職場の全員に配布するのではなく15枚くらいをテーブルにおいてとってもらう方式にした。とって読む人は2〜3人が現状だ。校長交渉については、設備面での要求は一定前進している。要求に基づく交渉は絶対に必要だ。

今年度、校長交渉を3年ぶりに行った。全教職員にアンケートをお願いし要求をまとめたが、アンケートに回答してくれたのは分会員が主で、未組合員は少なかったことが残念であった。

交渉日時の設定が難しい中で、管理職に都合のいい時間をつくってもらい、12月に交渉が実現した。交渉では、校舎・校門の施設やエアコン設置などについて前向きな回答が得られるなど管理職も誠実に対応していた。管理職からは、「交渉は職員が要求があれば(いつでも)おこなうつもりなので、職員の要求をくみ上げてほしい」との発言もあった。他の職場でも校長交渉は積極的に行うべきだ。



